

加工用としての グスベリーの 栽培

山本茂雄

1 栽培法

(イ) 育苗

栽培のスタートは苗木の入手から始まることになりま
す。苗木は挿木、取木で育成
することが出来ますが、初め
て栽培される方は信用ある種苗業者から入
手されることが大切です。

一般に販売されている苗木は、取木によ
るものが多く、苗木の太さは五〜六ミ、根
は二〜三本程度の弱々しい感じを与えるも
のです。このまま定植しますと、管理が不
十分で雑草に負け、枯死させてしまうこと
がよくあります。それで次の様な方法で管
理されることをお奨め致します。

苗木は通常、秋に販売されますが、購入
後、育苗ほを作って再度育苗することです。
次の年一年間管理し、秋か、翌春早々木畑
に定植します。一年遅れた様な感じを持ち
ますが、決して無駄でなく、健全で、根
も十分に発達した苗木を植えることにな
り、活着もよく、春に定植しますとその年
から結実を始めます。

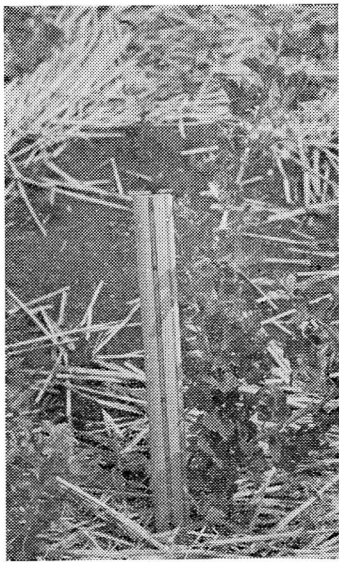
栽培距離は四五坪×二五坪程度で、一〇
坪分の苗木では五〇m²の面積でよく、肥料
は堆肥を一〇坪当たり二斗程度を基肥とし、
あと追肥として一〇坪当たり硫酸三斗で十
分です。また乾燥を防ぐため、根際に敷わ
らをするとう万全です。

なお品種はジャム、ゼリーにするには小
玉種でもよいのですが、収穫労力の面から
見て、ウドンコ病に弱いという欠点はあり
ますが、大玉種が無難でしょう。

(ロ) 定植

定植は秋植、春植がありますが、春植の
時には、発芽が早いので融雪早々に行な
います。

栽植距離は一・八坪〜二坪×一・二坪〜
一・五坪で一〇坪当り
三三〇〜四五〇本で、
管理作業を考慮して決
定します。植穴は径三
〇センチ、深さ三〇センチ程
度も十分で、堆肥一穴
に五斗前後入れ、土と
よく混ぜます。



育苗ほの苗木、前年秋購入苗木で7月
初て新梢が30センチ以上伸びている

なお、ここでも定植
後は敷わらをして、乾



定植後5年目の着果状況

(ハ) 施肥

施肥量は土壌、樹の生育具合等で異なり
ますが標準は第一表の通りです。
殆どは基肥として早春に施しますが、時
に二〇％程度追肥として収穫後施す場合も
あります。

この他、堆肥等の有機質肥料、石灰は適
宜施します。

(ニ) 管理

定植後一、二年は樹も小さいので、除草
は特に早目々々に行なうよ
う心掛けま
す。

仕立は放任
に近い程度で

第1表 グスベリー
の1本当たりの施肥量
(北農試 宮下技育)

要素	樹令			
	2年	4年	6年	年以上
窒素	10	25	35	35
リン	5	15	20	20
加里	5	20	30	30

最近貿易の自由化と共にデパートの食料
品売場、あるいは食料品店の陳列棚には外
国からの果実、蔬菜の罐詰詰が並べられて
いるのが目につきます。その中でグスベリ
ー、カーラント、ラズベリー等小果樹類の
ジャム、ゼリーが特に目を惹きます。
欧米では苺ジャムと並んでこれら小果樹
類のジャム、ゼリーは一般的なものになっ
ており、パンにつけて食べるほか、家庭で作
るケーキ、パイにも広く使われております。
日本では苺、りんご等のジャムが一般的で、
小果樹類の加工品は未だ消費者に知られて
いない面がありますが、今後食生活の変化
と共に、家庭用に、又製菓原料として需要
が増加するものと期待されます。また実際
に食品業界では興味を示し、利用法、採算
性等が検討され始めております。

グスベリーは耐寒性が強く、北海道では
毎年よく結果します。また暖地では暑過ぎ

よく、五、六年生頃から間引剪定で枝の更新をはかります。

なお、樹が大きくなってからも、稲わら、牧草等でマルチングを行なって地温の上りや、乾燥を防ぐことも必要でしょう。

(四) 防除

最も重要な病害はウドンコ病で、大玉種が弱いことからこの病害の防除には十分な注意が必要です。

この病害は、被害の甚だしい時には、新梢の発育も不良となり次年の収量に影響するばかりでなく、本年の果実も茶色の膜に覆われて、生食用は勿論、加工原料としても不適になります。

防除法としては早春発芽直前から七月下旬頃まで三〜四回、石灰硫黄合剤一〇〇倍液を十分に散布することで被害は大体防ぐことが出来ます。

(五) 収穫

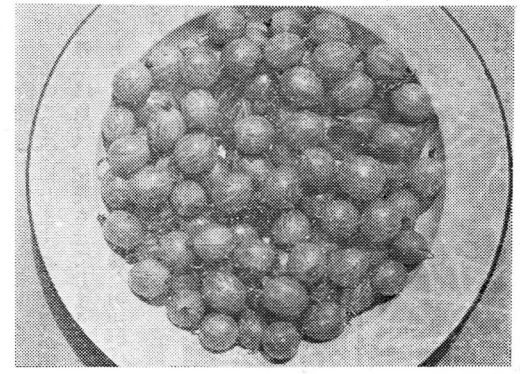
生食用には完熟前のものが収穫されますが、加工原料では良く熟したものが望ましく、特にジャム、ゼリー等では糖度の多少が加工歩留にも影響するので、この点に留意しなければなりません。

収量は大体次の通り期待出来るでしょう。

第2表 樹齢による収量

樹令	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目以降
1年目	0.05					
2年目		0.50				
3年目			0.90			
4年目				1.50		
5年目					3.00	
6年目以降						4.00

注1 苗木購入後1年間の育成量と苗木定植後1年間の育成量との差は370本換算収量



2 収支予想

果樹類は一般に収支相償うまでに年月を要しますが、小果樹類はその点比較的に短い年月で達します。

今直接費のみですが、定植後四年目と盛期に達した時の収支を試算して見ますと第三表のようになります。

この計算では大体四年目で収支相償い、成木期では労働報酬で一、四五八円になります。

このようにグスベリーは資材、労力のかからない作物ということになります。ただ収穫に要する労力が大きく、この点能率化をはかることが望まれますが、現在のところ、適当な機械もなく、人手で行なうしかありません。収穫期が丁度、中、高校生が夏期休暇に当たりますので、この労力を利用するのも一法かと思えます。

第3表 収支予想

樹齢	4年目		成木	
	支出	収入	支出	収入
肥	2,000円		2,600円	
料	3,000円		4,000円	
農	13,400円		22,700円	
力				
代				
費				
小計	18,400円		29,300円	
収入		19,600円		51,800円
生産物販売				
小計		19,600円		51,800円
差引合計		1,200円		22,500円
摘要	収量 560 kg/10 畝		収量 1,480 kg/10 畝	
	@円35/kg		@円35/kg	

第4表 労力費内訳

	4年目		成木	
	人数	金額	人数	金額
防除	3	2,700円	4	3,600円
施肥	2	1,400円	2	1,400円
中耕	4	2,800円	4	2,800円
除草	8	5,600円	20	14,000円
収穫	1	900円	1	900円
計	18	13,400円	31	22,700円
摘要	男女	@多900/8時間	男女	@多700/8時間

3 終りに

生産物の価格は、加工がジャム主体となると思われますから、苺その他のジャム類の価格から見ても多当り三五円、高くなるとしても多当り四〇円が適当と考えられます。

1は、果樹園の境界、あるいは傾斜地の利用からいっても北海道に適した果樹と考えられます。

ただ生産物を加工に向けることを主体に栽培する場合には、当然加工場との契約栽培で行かなければ安定しません。

現在では加工品の需要が潜在している段階で、活発な動きはありませんが、近い将来、北海道の特産品として、国内はおろか、諸外国にまで出廻る時が来ると期待しております。

(北海製罐株式会社罐詰研究所)

グスベリーの加工

グスベリーの家庭用加工法としては、グスベリー酒とジャムがある。グスベリー酒を作るには、茶褐色に熟する直前に収穫してよく水洗して乾かす。焼酎一・八リットルに対しグスベリー一・二リットル、氷砂糖一キを入れ密封する。三ヶ月以上経過すると琥珀色の美しいグスベリー酒が出来上がる。

またジャムを作るには、グスベリーの種子が舌ざわりとなるので、ジュースーなどにかけ種子を除去し、直ちに火にかけて攪拌しながら煮詰める。途中浮上る泡は味と外観を悪くするから掬いとる。汁が三分の二、二分の一位に煮詰ったら生果の約七割の砂糖を加え溶けたあと一回沸騰してから容器に移す。あまり酸度が強い場合は重曹を加えて酸を中和するとよい。(シラハタ)